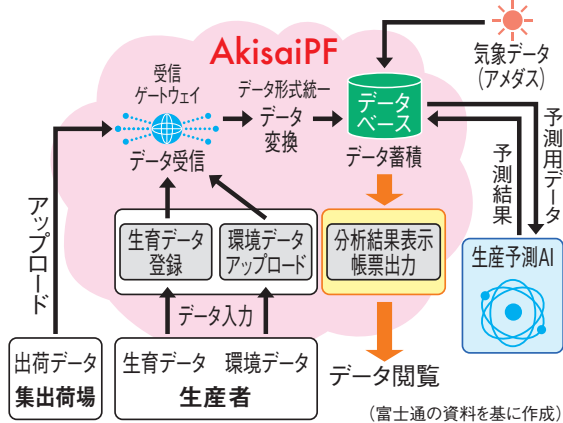


担い手通信

JAバンクは地域の担い手を応援します

1

「高知県園芸品生産予測システム」のイメージ図



システム名は「高知県園芸品生産予測システム」。AIを活用して生産量を予測する試みは全国でも珍しい取り組みです。実施地域と品目は安芸市、芸西村でナス、安芸市でピーマン、高知市でキュウリ。富士通が開発した生産管理システム「AkisaiPF（アキサイプラットフォーム）」

高知 高知県は富士通などと共同で、農作物の生育から出荷までのデータを一元管理し、人工知能（AI）を活用して最長3週間先の生産量を予測するシステムを開発しました。品目はナス、キュウリ、ピーマン。JAも協力し、今月から、県内600戸の施設園芸農家で実証試験を始め、3月から本運用する計画です。生産量の高精度予測で、予約相対取引の拡大が見込め、農家所得の安定につながります。

今月の話題

予約相対拡大へ 蓄積データ活用 AI使い3週間先まで収量予測

高知県など 果菜類で

ム」を使い、東京都のシステム会社・Nextremerが分析します。

生産量の予測は、集出荷場の出荷量や等階級など過去2年以上の選果データと最新の地域の気象状況を基に、AIで分析し割り出します。県環境農業推進課によると、数年後には、生産者ごとのハウス内の温度や湿度などの環境情報や着花、着果数をAIの予測に取り入れ、精度向上を目指します。

データをグラフ化し、農家が一目見て分かるように工夫しています。出荷量や等階級、出荷物の長さ、太さなど個人の成績と部会

平均と比較できます。その比較で、農家に栽培管理の改善点の気付きを促します。農家の他、県の普及員やJAの営農指導担当者がデータを閲覧し、栽培指導に役立てます。

今が旬
この言葉

改正出入国管理法 (入管法)

改正入管法により、4月から「特定技能1号」が創設されます。この在留資格により、農業では、外国人が通算5年を上限に働くことができます。外国人は一定の技能や日本語能力を問う試験への合格が必要ですが、3年間の技能実習修了者の試験は免除されます。農業では既に6万8000人の外国人が技能実習を修了し帰国済みです。農水省はそうした外国人の受け入れを見込み、農業での受け入れは改正法施行以降、速やかに可能になるとの見通しを示しています。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

水温化で水田土壌中の有機物が不足する恐れ
稲わらに加え堆肥等の投入不可欠

田の地力を維持・増進するために欠かせない有機物。有機物は、土壌中の微生物の働きにより分解され作物の生産性や品質を高める働きがあります。

県内の水田ではこれまで、稲わらが有機物として投入され、土壌環境が維持されてきました。しかし、近年の気温上昇により微生物の働きが活性化すると、土壌中の有機物の分解が進んでいる可能性があります。

実際、津地方気象台観測データによると、2015年を起点とした過去30

年間の年間平均気温は、1990年を起点としたものに比べ、約1度上昇しています。

そこで三重県農業研究所は、土壌中炭素量予測モデルを用いて気温と土壌中の有機物の関連を検討しました。その結果、土壌中の有機物量を維持・増進するためには、稲わら全量還元だけでは不十分で、堆肥（たいひ）を年間およそ0.5〜1.0t/10a投入する必要があることが明らかとなりました。

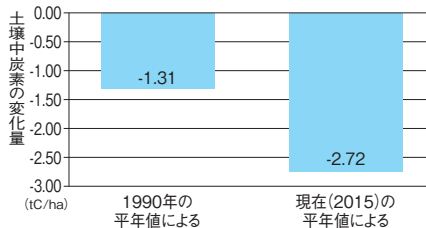
同モデルによると、10aあたり450kgの稲わら（炭素相当量180kg）が

全て還元された場合、1990年における気温条件では今後50年間で減少する土壌炭素量（推定）は130kg/10aですが、平均気温が1度上昇している2015年における条件では、減少する土壌炭素量は270kg/10aとなり、およそ2倍の速さで土壌中炭素が減少すると予測されました。

今回の結果では、気温の上昇が進むと予想される中で、水田の有機物量を維持・増進するためには、稲わら全量還元に加え、堆肥などの有機物の投入が必要不可欠であることが示されました。この

50年間の土壌中炭素減少量の年代別比較

改良RothCモデル(Shirato&Yokozawa, 2005)を活用した予測



モデルは農業研究所内の水田で行われたデータを使用しているため、現地での気象状況や土壌の種類を考慮する必要がありますが、今後の土づくりに関する推進活動への活用が期待が高まります。

お問い合わせ先 三重県農業研究所 フード・循環研究課 ☎ 0598-42-6361

県内NEWS

(日本農業新聞より)

JA松阪 手作り弁当に高齢者ら笑顔

JA松阪大足店女性部「足っ娘倶楽部」は11月中旬、地元の高齢者が集まる「いきいきサロン」に弁当を作って届けた。色とりどりの総菜が入った弁当に、参加者らは笑顔で舌鼓を打った。同サロンは毎週1回集落センターで開いている。今回は年1回地区に住む80歳以上の住民を対象に開く「ご近所さんとの集い」へ弁当を届けた。届けた弁当は足っ娘倶楽部が「第8回あなたに届けるJA健康寿命100歳弁当コンテスト」に応募した「松阪ギュッとモーツと弁当」。柿とインゲンの豚肉巻きなど地元や旬の食材を使った全10品が詰め合わさっている。

(2018/12/12 ワイド1東海)

JA多気郡 柿「次郎」香港へ

県内最大の柿産地を管内に持つJA多気郡柿部会は12月9日、冷蔵保存し個包装した柿「次郎」100ケースを香港輸出向けに出荷した。選果した柿を真空包装し、新規導入した真空包装用の冷蔵庫に保管することで、収穫期終盤となる12月上旬の柿を、12月末まで出荷することが可能になった。贈答文化がある国では一定の需要があることから、JAは2014年のタイ向けを皮切りに、香港やマレーシアへ輸出している。18年度は前年の約1.6倍の約20トンの冷蔵柿を海外に輸出する見込みだ。

(2018/12/9 エリア東海)

JA三重南紀 個別相談で農家支援 経営の悩みお答えします

JA三重南紀は12月上旬、御浜町の本店で、本年度設立した青年部の部員を対象に「JAバンク農業者個別相談会」を開いた。農家の経営相談機能の強化や拡充を目的に開催。担い手のさまざまなニーズに対して情報提供するとともに、経営課題の改善に取り組む。参加した岡勇人さんは「個別相談なので、普段あまり相談できないようなことを相談できてよかった。確定申告にも役立てたい」と話した。

(2018/12/15 ワイド2東海)

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を応援します！

農業を営むすべての方に

農業経営資金

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を**5年間軽減**いたします。

JAバンク利子補給制度(3年間)と
当JA金利引き下げ(2年間)措置の対象となります。
利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

(お借入金利) 変動金利 年1%	-	(JAバンク利子補給・金利引き下げ) 年0.8%	=	実質 年 0.2%
---------------------	---	-----------------------------	---	------------------

5年間

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成30年12月現在

※JAバンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2%を下回らないように調整されます。
※イメージは実際とは異なる場合がございます。詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。
※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。